

**ニホンリス** 齧歯目 (ネズミ目) リス科  
*Sciurus lis* Temminck, 1844

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)  
：“中国地方のニホンリス”で掲載



倉吉パークスクエア 三朝町内捕獲個体 2010.3.5 / 撮影：倉吉市

- 選定理由**：おもな生息環境である里山から山地にかけてのアカマツとナラ類等の混交林が減少しており、注意が必要である。
- 特徴**：頭胴長20 cm内外，尾長15 cm，体重250–300 g程度。背は，夏毛では赤褐色，冬毛では灰褐色をおび，耳先にふさ毛が生じる。腹部は1年を通して白色。昼行性で，樹上や地上でも植物を摂食する。
- 分布** 県内：里山から山地のマツ林に多い。県東部を中心に中部，西部の日野川まで生息が確認されているが，日野川以西の生息情報は少ない。県外：本州，四国。日本固有種。
- 保護上の留意点**：完全な森林性哺乳類で，ある程度の広さの森林が必要。孤立林には生息しないので，コリドー等で連続した森林を確保すること，生息適地であるマツ林の保全が重要。
- 文献**：12, 62.

執筆：西 信介

**ニホンモモンガ** 齧歯目 (ネズミ目) リス科  
*Pteromys momonga* Temminck, 1844

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



成獣 若桜町春米 2010.11.21 / 撮影：岡田 純

- 選定理由**：分布が局所的で個体数が少ない。伐採や林道等によって生息地の縮小，分断化が起きていると考えられる。
- 特徴**：頭胴長15–20 cm，尾長12 cm内外。尾は扁平で，前後肢の間に飛膜がある。夜行性で目が大きい。樹洞をねぐらにし，夜間に林内を滑空する。樹木の葉，樹皮，果実等を食べる。春に2–6仔を産む。氷ノ山では5月に幼獣とその親とみられる個体が観察されている。
- 分布** 県内：若桜町，智頭町，八頭町の山地森林。県外：本州，四国，九州（日本固有種）。
- 保護上の留意点**：生息情報が少なく，伐採や林道建設に伴う保全対策がほとんど行われていない。生息地の分断化による繁殖移動や分散への影響が懸念される。成熟した天然林の指標種であり，生息する森林の保全と生息実態調査が望まれる。
- 文献**：24, 49.

執筆：岡田珠美・岡田 純

**ムササビ** 齧歯目 (ネズミ目) リス科  
*Petaurista leucogenys* (Temminck, 1827)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



広島市安佐南区 1994.3.21 / 撮影：保井 浩

- 選定理由**：鳥取県では1958年から1997年までに6件ほどの確認があるが，それ以降は確認報告はない。県内の生息地は多くないと考えられ，今後，注意して見守るべき種と判断して準絶滅危惧とした。
- 特徴**：頭胴長30–50 cm，体重700–1100 g。飛膜をもち，木々の間を滑空して移動する。夜行性で昼間は樹洞巣で休息するため，樹洞ができやすい大径木がある林に生息しやすい。家屋の屋根裏や戸袋に巣をつくることもある。
- 分布** 県内：東部，中部，西部の数カ所で確認。県外：北海道と沖縄を除く全都府県（日本固有種）。
- 保護上の留意点**：学術的な調査等による生息地の確認が望まれる。低標高地の大径木が残る天然林や二次林は生息地になる可能性があるため，できるだけ保存すべきであろう。
- 文献**：6, 25, 27.

執筆：小林朋道

**ヤマネ** 齧歯目 (ネズミ目) ヤマネ科  
*Glirulus japonicus* (Schinz, 1845)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市国府町扇ノ山 2001.5.4/撮影：小寺雄造

■**選定理由**：近年の確認記録が県東部の山地森林に限定され、生息適地の減少も懸念される。

■**特徴**：頭胴長7-8 cm内外。ほぼ全身が淡褐色、背面正中に1本の黒い縦すじがある。森林内の樹上で活動し、昆虫や木の実、花などを食べる。夜行性で、昼間は樹洞や樹幹の隙間、小鳥用の巣箱などにひそむ。同様の場所を繁殖用の巣にも利用する。冬季は体温を下げ、仮死状態で冬眠する。

■**分布** 県内：大山の冷温帯域で1960年代に3件の記録があるが、その後の報告は県東部に限られる。氷ノ山周辺を中心に、扇ノ山、八頭町(旧八東町)、智頭町で見つかっており、低標高暖温帯域での記録も含む。県外：本州、四国、九州、隠岐島後。日本固有種。

■**保護上の留意点**：隠れ家や繁殖巣用に、樹洞や類似の環境を確保できる森林環境を保全することが重要。県内での生息状況の調査が望まれる。

■**文献**：29, 30, 65, 67.

執筆：一澤 圭

**ツキノワグマ** 食肉目 (ネコ目) クマ科  
*Ursus thibetanus* Cuvier, 1823

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群(LP)  
("東中国地域のツキノワグマ"で掲載)

雄幼獣 智頭町 2010.9.15/撮影：鳥取県

■**選定理由**：主たる生息地は県東部の山域(兵庫県・岡山県を含む東中国山地)で、環境省RDBで「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定。

■**特徴**：頭胴長110-140 cm、体重40-120 kg。体毛は黒く、胸に三日月形の白毛があるが、県内に生息する個体にはない個体も多い。12月~3月頃に木のうろや岩穴等で冬眠し、雌は冬眠中に出産。植物食に偏った雑食性で、ブナ帯の落葉広葉樹林が本来の生息域。冬眠前の餌としてブナ、ミズナラ類の堅果に依存し、凶作の年には行動域を拡大、人里に出没して問題となる。遺伝的多様性の低下がみられ、近交弱勢が危惧されるが、山村地域での人間活動減退やトンネル整備の推進等に伴い、分布は拡大傾向にある。

■**分布** 県内：鳥取市、岩美町、八頭郡、三朝町、大山町と日野郡の一部。県外：本州、四国、九州(ほぼ絶滅)；ヒマラヤから中国、ロシア、台湾。

■**保護上の留意点**：繁殖力が弱く、捕獲(捕殺)に注意が必要。今後の調査が望まれる。

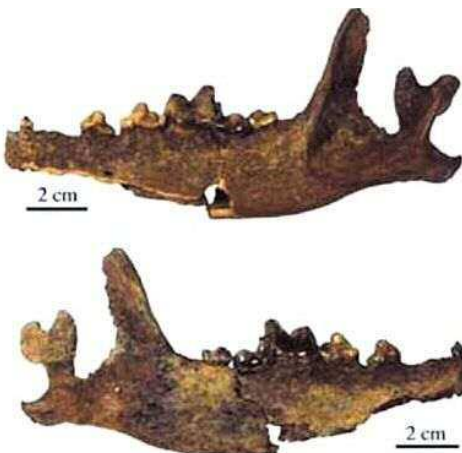
■**文献**：16, 47.

執筆：西 信介

**ニホンオオカミ** 食肉目 (ネコ目) イヌ科  
*Canis lupus hodophilax* Temminck, 1839

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅 (EX)



ニホンオオカミ下顎骨(青谷上寺地遺跡) / 撮影：井上貴央

■**選定理由**：鳥取市青谷町<sup>あおやかみじち</sup>青谷上寺地遺跡から下顎骨が出土しており、かつて鳥取県に生息していたのは確実である。

■**特徴**：胴頭長は1m20 cm程度でノイヌよりひとまわり大きい。山林や原野に生息し、シカやノウサギを捕食。

■**分布** 県内：少なくとも明治以降の確実な生息記録はない。県外：かつては本州、四国、九州に広く分布していたが、1905年に、奈良県の東吉野村で捕獲されて以来、記録はない。

■**特記事項**：江府町にはヒトがオオカミにおそわれたという史実があるが、本当にオオカミであるのかどうかは確認できない。

■**文献**：15.

執筆：井上貴央

**ニホンイタチ** 食肉目 (ネコ目) イタチ科  
*Mustela itatsi* Temminck, 1844

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



広島県大野町 1996.3.17 / 撮影：保井 浩

■**選定理由**：2001年以降、県内での本種の確認報告はない。学術的な調査が行われていないことも未確認の原因の一つと考えられるが、外来種のチョウセンイタチ *Mustela sibirica* Pallas, 1773の繁殖による本種の生息数減少が現在も続いている可能性がある。

■**特徴**：頭胴長は雌20 cm内外，雄32 cm内外。全身茶から山吹色で，額中央部から鼻境部にかけて濃褐色の斑紋がある。チョウセンイタチより小型で尾が短い。

■**分布** 県内：若桜町，八頭町，鳥取市（用瀬町，河原町），北栄町など。県外：本州，四国，九州（日本固有種）。

■**保護上の留意点**：チョウセンイタチの山間部への侵入は起りにくいと考えられており，餌となるネズミ類や甲殻類などが生息できる自然度の高い山地・河川の保全が本種の保護につながると考えられる。

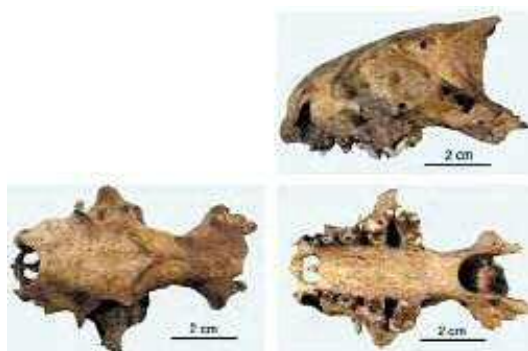
■**文献**：7, 26, 57.

執筆：小林朋道

**ニホンカワウソ** 食肉目 (ネコ目) イタチ科  
*Lutra lutra nippon* Imaizumi & Yoshiyuki, 1989

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧IA類 (CR)



ニホンカワウソ頭骨 / 撮影：井上貴央

■**選定理由**：米子市<sup>めぐみ</sup>目久美遺跡，青谷町<sup>あおやかみじち</sup>青谷上寺地遺跡から頭蓋骨や下顎骨が出土しており，かつて鳥取県に生息していたのは確実である。

■**特徴**：体長70 cmほどで，尾長は40–50 cmほどある。全体に細長く，体毛は茶褐色である。川の中流の溪流から沿岸部，および離島の河川の下流に生息し，夜行性である。エビ，カニ，小魚を捕食するほか，ノネズミ類を捕食していると推測されている。

■**分布** 県内：少なくとも明治以降の確実な生息記録はない。県外：かつては北海道（北海道産は別亜種），本州，四国，九州に広く分布しており，明治・大正年間には大量に捕獲された記録がある。その後，河川環境の変化とともに徐々に数が減り，瀬戸内海や高知県南岸にごく少数が生息するにすぎないと考えられている。1979年に高知県で目撃されたのが最後で，それ以降は発見されていない。

■**特記事項**：鳥取県立博物館には古い剥製標本があるが，産地は不明である。

■**文献**：13, 15.

執筆：井上貴央

**ニホンアシカ** 食肉目 (ネコ目) アシカ科  
*Zalophus japonicus* (Peter, 1866)

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧IA類 (CR)



ニホンアシカ下顎骨(青谷町青谷上寺地遺跡) / 撮影：井上貴央

■**選定理由**：鳥取市<sup>あおやかみじち</sup>青谷町青谷上寺地遺跡から下顎骨や前肢の骨などが出土しており，かつて鳥取県に生息していたのは確実である。

■**特徴**：体長は1 m 50 cm–2 m 50 cm程度。雄は雌より大きく，成獣になると矢状稜が発達し，頭頂部にこぶができる。沿岸や離島の岩礁に生息。隠岐や竹島では海食洞を利用していたことが分かっている。イカや魚類を捕食。繁殖期にはハレムを形成する。

■**分布** 県内：少なくとも明治以降の確実な生息記録はない。県外：北海道から鹿児島まで太平洋側や日本海側のほとんどの海域に生息していたが，現在では姿を見ない。

■**保護上の留意点**：鳥取県内では現在生息の可能性はないが，朝鮮半島などの近隣にまだ生息していて，漂着する可能性があるので注意を要する。

■**特記事項**：鳥根県竹島では明治大正年間に大量の捕獲が行われた事実があり，1975年までは生息が確認されている。

■**文献**：—

執筆：井上貴央

**ニホンカモシカ** 偶蹄目（ウシ目）ウシ科  
*Capricornis crispus* (Temminck, 1845)

鳥取県：絶滅（EX）

環境省：—



明治時代に八頭郡若桜町で狩猟されたニホンカモシカの毛皮／撮影：井上貴央

■**選定理由**：鳥取市<sup>あおやかみじち</sup>青谷上寺地遺跡から下顎骨，肩甲骨などが出土しており，明治時代の毛皮が確認されていることから，かつて鳥取県に生息していたのは確実である。

■**特徴**：体高65–80 cm。顕著な性的二型は認められず，雄雌ともに，黒色の短い円錐型の角を有する。体色は灰白色～黒褐色。低山帯から亜高山帯の落葉広葉樹林や混交樹林に生息する。草や木の葉・芽のほか，秋・冬季には落葉も食べる。

■**分布** 県内：明治時代に八頭郡若桜町の山中で狩猟された毛皮が残っている。県外：東北，中部地方，紀伊半島，四国や九州の一部に生息する。中国地方では絶滅したと考えられている。

■**特記事項**：国の特別天然記念物（1955年指定）。

■**文献**：15.

執筆者：井上貴央

## ■参考文献 哺乳類

〈書籍略称〉

鳥取県のすぐれた自然（動物）＝江原昭三・鶴崎展巨（編）  
（1993）鳥取県のすぐれた自然（動物編）鳥取県衛生環境部  
自然保護課発行（鳥取市）327 pp.  
レッドデータブックとっとり（動物）＝鳥取県自然環境調査研  
究会 動物調査部会（編）（2002）レッドデータブックとっ  
とり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物。動物編。鳥取  
県生活環境部環境政策課。214 pp.

- 阿部 永（2005）ミズラモグラ. p. 19. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類. 東海大学出版会（東京），206 pp.
- 阿部 永（2005）アズマモグラ. p. 23. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版会（東京），206 pp.
- 阿部 永・横畑泰志（編）（1998）食虫類の自然史. 比婆教育振興会（庄原），391 pp.
- 浅井三礼（1991）氷ノ山で採集されたミズラモグラ. 比婆科学，150：46.
- 馬場 稔（2010）ニホンザル. pp. 345－346. In：野生生物保護学会（編）野生動物保護の事典. 朝倉書店，東京，782 pp.
- 馬場 稔（2010）ムササビ. pp. 356－360. In：野生生物保護学会（編）野生動物保護の事典. 朝倉書店，東京，782 pp.
- 土肥昭夫（2010）イタチ. pp. 385－386. In：野生生物保護学会（編）野生動物保護の事典. 朝倉書店，東京，782 pp.
- 船越公威（2005）ユビナガコウモリ. pp. 48－49. In：コウモリの会（編）コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
- 船越公威・山本貴仁（2001）高知県蒲葦島からのオヒキコウモリ *Tadarida insignis* 生息地の新記録. 哺乳類科学，41：87－92.
- 日野郡科学教育研究会・日野教協教育部理科班（編）（1955）脊椎動物門1. 哺乳類. 「日野郡生物誌」, pp. 15－16.
- 井上牧雄（2002）カワネズミ. p. 25. In：レッドデータブック鳥取（動物）
- 井上牧雄（2002）ニホンリス. p. 30. In：レッドデータブック鳥取（動物）
- 井上貴央（1986）目久美遺跡より検出された動物依存体について. pp. 129-138. 加茂川改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書.
- 井上貴央（1995）日本海竹島のニホンアシカその2. 捕獲頭数の変遷. 海洋と生物 17：41－46.
- 井上貴央・松本充香（2002）青谷上寺地遺跡から検出された動物遺存体について. pp. 470－480. In：鳥取県教育文化財団調査報告書74『青谷上寺地遺跡4』. 鳥取県教育文化財団.
- Ishibashi, Y. & Saitoh, T. (2004) Phylogenetic relationships among fragmented Asian black bear (*Ursus thibetanus*) populations in western Japan. *Conservation Genetics*, 5：311－323.
- 巖城 隆（2002）ミズラモグラ. p. 26. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 巖城 隆（2002）アズマモグラ. p. 87. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 巖城 隆（2002）コキクガシラコウモリ. p. 27. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 巖城 隆（2002）キクガシラコウモリ. p. 27. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 巖城 隆（2002）モモジロコウモリ. p. 28. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 巖城 隆（2002）ヤマコウモリ. p. 28. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 巖城 隆（2002）ユビナガコウモリ. p. 29. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 巖城 隆（2002）ホンドモモンガ. p. 30. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 片岡智徳（2002）ムササビ. p. 31. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 片岡智徳（2002）ニホンイタチ. p. 33. In：レッドデータブックとっとり（動物）.
- 川道武男（1996）ムササビ. pp. 78－83. In：日本動物大百科1哺乳類I（日高敏隆監修）. 平凡社，東京.
- 小林朋道（2007）先生，巨大コウモリが廊下を飛んでいます！ 築地書館（東京），182 pp.
- 小林 徹（2006）智頭町（暖温帯低標高）におけるヤマネ（げっ歯目ヤマネ科）の記録. 山陰自然史研究，2：34－35.
- 小寺雄造・川上 靖（2003）扇ノ山（鳥取県国府町）におけるヤマネ（齧歯目ヤマネ科）の記録. 山陰自然史研究，1：26.
- 國本洗紀（2006）ミズラモグラの鳥取県三朝町からの初記録. 山陰自然史研究，2：33.
- 前田喜四雄（2005）コキクガシラコウモリ. p. 31. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版. 206 pp.
- 前田喜四雄（2005）モモジロコウモリ. p. 36. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版. 206 pp.
- 前田喜四雄（2005）ヒメホオヒゲコウモリ. p. 39. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版. 206 pp.
- 前田喜四雄（2005）ヤマコウモリ. pp. 50. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版. 206 pp.
- 前田喜四雄（2005）ヒナコウモリ. p. 52. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版. 206 pp.
- 前田喜四雄（2005）ユビナガコウモリ. p. 56. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版. 206 pp.
- 前田喜四雄（2005）テングコウモリ. p. 58. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版. 206 pp.
- 前田喜四雄（2005）コテングコウモリ. p. 59. In：自然環境研究センター（編）日本の哺乳類（改訂版）. 東

- 海大学出版. 206 pp.
40. 前田喜四雄 (2005) オヒキコウモリ. p. 62. In: 自然環境研究センター (編) 日本の哺乳類 (改訂版). 東海大学出版. 206 pp.
  41. 前田喜四雄 (2010) オヒキコウモリ. p. 342. In: 野生生物保護学会 (編) 野生動物保護の事典. 朝倉書店, 東京, 782 pp.
  42. 美田 正 (1964) 生物の種類と生態 A. 動物について (3) 哺乳綱. p. 10. In: 鳥取郷土研究会 (編) 「郷土の自然と社会」.
  43. 向山 満 (2005) ヒナコウモリ. pp. 42-43. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  44. 向山 満・重昆達也 (2005) ヒナコウモリ. pp. 40-41. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  45. 向山 満・重昆達也 (2005) テングコウモリ. pp. 50-51. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  46. 向山 満・重昆達也 (2005) コテングコウモリ. pp. 52-53. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  47. Ohnishi, N., Uno, R., Ishibashi, Y., Tamate, H. B. & Oi, T. (2009) The influence of climatic oscillations during the Quaternary Era on the genetic structure of Asian black bears in Japan. *Heredity*, 102: 579-589.
  48. 岡田 純・岡田珠美・一澤 圭 (2010) 鳥取県西部からのキクガシラコウモリの新産地. *山陰自然史研究*, 5: 63-64.
  49. 岡田珠美 (2008) 鳥取県氷ノ山におけるホンドモモンガの記録. *山陰自然史研究*, 4: 56.
  50. 岡田珠美・岡田 純 (2006) 氷ノ山におけるヒナコウモリの初記録. *山陰自然史研究*, 2: 39-40.
  51. 岡田珠美・鶴崎展巨 (2003) 氷ノ山におけるミズラモグラの新記録. *山陰自然史研究*, 1: 26.
  52. 岡田珠美・岡田 純・一澤 圭 (2008) 鳥取県におけるテングコウモリ属2種の初記録およびヒナコウモリの2例目の記録. *鳥取県立博物館研究報告*, 45: 7-9.
  53. 岡田珠美・岡田 純・上野吉雄・内藤順一 (2010) 鳥取県若桜町氷ノ山からのヒメホオヒゲコウモリの初記録. *山陰自然史研究*, 5: 62-63.
  54. 佐野 明 (2005) キクガシラコウモリ. pp. 14-15. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  55. 佐野 明 (2005) モモジロコウモリ. pp. 22-23. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  56. 佐野 明 (2005) コウモリ保護の現状. pp. 60-61. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  57. 佐々木 浩 (1996) ニホンイタチとチョウセンイタチ. pp. 128-131. In: 日高敏隆 (監修) 川道武男 (編) 日本動物大百科 第1巻 哺乳類 I. 平凡社, 東京, 156 pp.
  58. 澤田 勇 (1984) 山陰地方における洞穴棲コウモリの分布及びその内部寄生虫相. *奈良教育大紀要*, 33 (2): 33-44.
  59. Sawada I. (1985) *Vampirolepis shirotanii* sp.n. (Cestoda: Hymenolepididae), with records of known cestodes, from bats of Japan. *Zool. Sci.*, 2: 405-409.
  60. 澤田 勇 (1994) 日本のコウモリ洞総覧. *自然誌研究雑誌*, 2/3/4: 53-80.
  61. 澤田 勇 (1996) 「日本のコウモリ洞総覧」こぼれ話-鳥取県の巻-. *鳥取生物*, 29: 1-5.
  62. 田村典子・松尾龍平・田中俊夫・片岡友美・広瀬南斗・富士本八央・日置佳之 (2007) 中国地方におけるニホンリスの生息状況. *哺乳類科学*, 47: 231-237.
  63. 安井さち子 (2005) ヒメホオヒゲコウモリ. p. 28. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  64. 山本賢二 (1993) ニホンカワネズミ. pp. 6-7. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
  65. 山本賢二 (1993) ヤマネ. pp. 10-11. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
  66. 山本賢二 (2002) ニホンザル. p. 29. In: レッドデータブックとっとり (動物).
  67. 山本賢二 (2002) ヤマネ. p. 31. In: レッドデータブックとっとり (動物).
  68. 山本輝正 (2005) コキクガシラコウモリ. pp. 16-17. In: コウモリの会 (編) コウモリ識別ハンドブック. 文一総合出版. 68 pp.
  69. 横畑泰志 (2010) 食虫 (モグラ) 目. pp. 334-339. In: 野生生物保護学会 (編) 野生動物保護の事典. 朝倉書店, 東京, 782 pp.
  70. 吉田博一 (1969) 大山の小哺乳類に関する二, 三の知見. *哺乳動物学雑誌*, 4: 127-130.